

Title	俳句
Author(s)	古谷, 美津女
Citation	懐徳. 1936, 14, p. 84-85
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/88964">https://hdl.handle.net/11094/88964</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

足音のしして短夜の夢淡し

清瀧神社

くみあげて尊き清水いたゞきぬ

下山

半ば下りて汗ふきぬ皆と掬む水に

村井多喜女

飛鳥文化展を観て

親と居て春の御佛おがむなり

大和樂師寺

二句

この寺の螢見ぬこそ惜しきかな

ふりそゞ梅雨ひとゞきのしづけさよ

野のはてと思ふあたりを秋の雲

秋風や人なつかしう山下る

古谷美津女

雲低し春來し色の野の木立

梅の寺下るに會ひけり大霰  
アカシヤの花かき立て、雨となる  
藤の豆風にをりく現はれし  
苔の花つくばうて見て美しき

藤塚紅果

懷德堂秋季開講 二句

新涼や素讀の聲に力ある  
道を聽く人のふえけり秋涼し

生駒山麓

瓦焼く煙の見えて春の雨

藥師寺

春雨の煙れる松や鳥の聲  
三井寺の新茶香はし力餅